

## 大阪大学経営協議会（平成29年度 第4回）議事要旨

日 時 平成30年3月12日（月）13時30分～16時02分

場 所 大阪大学中之島センター 9階会議室1・2

出席者 西尾総長（議長）

井上、井野瀬、大石、尾崎、佐藤、鈴木、津賀、土屋、鳥井、野路、村尾、CASSIM、  
米田、三成、小林、八木、小川、河原、吉川、工藤、鬼澤、下村、田島、村上、有  
川 各委員

欠席者 友野 委員

議事に先立ち、西尾議長より会議開催に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。  
また、前回（11月2日開催）の議事要旨については、既に各委員に照会し、内容を確定  
して本学ホームページに公表済みである旨の報告があった。

### 議 事

#### 【議事】

#### 1 役員の内命等について

西尾議長から、配付資料に基づき、平成29年12月31日をもって任期満了となった  
理事について再任の形で任命したこと及び理事の担当の変更について報告があった。

#### 2 平成29年度大阪大学一般入試（前期日程）等の理科（物理）における出題及び採点の 誤り等について

小林委員から、配付資料に基づき、本学の平成29年度一般入試（前期日程）等の理科  
（物理）における出題及び採点の誤り等について、概要の報告及び今後の対応の説明があ  
った。

なお、学外委員より以下のような意見があった。

- ・今回の案件を受けて、入試問題の誤りを無くす、あるいは早く誤りに気付く仕組みや、組  
織的な入試問題検証の体制を整えたことは高く評価される。しかし、仕組みを作っただけ  
ではうまく機能しない例も多く、また、関係する人数が増えるということはそれだけ漏洩  
のリスクも上がるということであり、構成員全体で守秘義務等まで含めた危機管理意識を  
しっかりと高めていく必要があるのではないか。
- ・事案の記憶を風化させない仕掛けとして、例えば我々企業では、非常に分かりやすい言葉  
で、いつも原点に戻るということをやっている。分かりやすい言葉で、いつも振り返られ  
るようにすることは1つの手段である。

### 3 指定国立大学について

西尾議長から、平成29年度入試案件を受けて、平成29年12月末に提出することとしていた指定国立大学の再審査に向けた書類については提出を見送ったことの報告があった。続けて、本件の構想は本学の進むべき方向であり、実現に向けて、管理運営面での強化を含め、万全の体制で進めていくことの説明があった。

なお、学外委員より以下のような意見があった。

- ・今回の入試の案件により、一度は不合格になったが、その中でもやっぱり大阪大学に来たいという人もいるわけであり、やはり大阪大学というのは日本でも有数の大学だと思われるのだろう。そういう点ではその方々のためにも指定国立大学にならなければいけないのではないか。そういう人たちの期待、気持ちを汲み取り、絶対にもっと良い大学になってやるという覚悟を決めたほうが良い。

### 4 大阪大学第3期中期計画の変更について

三成委員から、配付資料に基づき、学部及び大学院の入学定員数の変更に伴う本学の中期計画別表（収容定員）の変更について説明があり、審議の結果、これを承認した。

### 5 平成30年度大阪大学年度計画（案）について

三成委員から、配付資料に基づき、平成30年度の年度計画の策定について説明があり、審議の結果、これを承認した。

### 6 平成30年度予算（案）について

三成委員及び小川委員から、配付資料に基づき、平成30年度政府予算案の概要について報告があった。続いて小川委員から、配付資料に基づき、本学の平成30年度予算案について説明があり、審議の結果、これを承認した。

### 7 教職員の給与等について

鬼澤委員から、配付資料に基づき、技能職員（看護助手）への特例教職員制度の導入及びそれに伴う特別賞与額の設定について説明があり、審議の結果、これを承認した。

### 8 大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社の投資先ベンチャー企業の上場について

八木委員から、配付資料に基づき、本学の出資事業における投資先企業が、東京証券取引所からマザーズ上場の承認を得たことについて報告があった。

### 9 総長選考会議委員の選出について

三成委員から、配付資料に基づき、経営協議会の学外委員から選出される総長選考会議委員について、現委員が平成30年3月31日で任期満了となることに伴い、後任となる6名を選出する必要があることの説明の後、井野瀬、大石、鈴木、友野、鳥井、村尾の各委員を選出することの提案があり、審議の結果、これを承認した。

### 10 前回のご意見に対する取組状況について

西尾議長から、配付資料に基づき、前回の本協議会で学外委員からいただいた意見や助

言に対する取組状況について報告があった。

#### 【その他】

##### 1 第13回大阪大学ホームカミングデイの開催について

吉川委員から、配付資料に基づき、第13回大阪大学ホームカミングデイへの参加案内があった。

#### 【意見交換】

##### 1 今年度を振り返ってのご意見

西尾議長より意見交換テーマの趣旨について説明のあった後、学外委員から以下のような意見があった。

- ・大阪は京都ほど内にこもっているわけでもなく、東京ほど全てが寄ってくるわけでもない。みんな大阪が好きだけれども、でも大阪にこだわらない人が多い気がする。それは大阪の良いところでもあるのだが、もう少し大阪にこだわって「大阪の街」という文化を持つようになるべきだと思う。「大阪というもの」を考えることに軸足を置いて、企業だけでなく大学と一緒にムーブメントを起こしていきたい。
- ・人口を増やして成長していくにあたり、大阪は今非常に厳しい。日本全体も厳しいが、例えば福岡はとても元気である。なぜかというと東南アジア、中国等と非常に活発に往来がある。また、地元の産業や九州をどれだけ元気にするのかということに非常に力を入れている。大阪大学が、大阪の街、大企業、中小企業、東南アジアの国々等とつながり、貢献することで、結果として大阪が繁栄し、大阪大学が繁栄するという流れを作っていけるのではと期待している。
- ・今回の入試の案件で、しばらくは大阪大学がどのように対応するかをメディア含めて国民全体が見ている時期である。今はこれをチャンスに変えていく醸成の時期であり、リスク管理等の強化につなげていっていることは非常に良いのではないかと。学生のことを第一に、スチューデント・ファーストを前面に出しながら次の展開に進んでほしい。
- ・大阪大学が持つ組織のDNAというものがあるはずであり、変えてはいけないものは何か、あるいはより変化、増幅させるものは何かを考えるべきである。大阪大学が大事にしてきたものは適塾をはじめ何だったのかを絶えず意識しながら、時代の変化を先取りしてほしい。
- ・「OUビジョン」という素晴らしい提案をしており、学外に対してはかなりアピールがなされているが、学内に対してどこまで総長が積極的、理論的に伝えているのか。何かあったときに構成員全員が一致団結できるかどうかは、普段からの総長の意思表示や説得力にかかっている。
- ・大学はインナーコミュニケーションが他の組織よりも下手である。そのために、非常に簡単な方法だが、やはり総長をヒーロー化しなければいけないのではないかと。ヒーロー化して総長を固く外部から守るということではなく、タウンミーティング的に学生や教員の悩

みを聞きながら歩けるようなフレンドリーなアプローチをやってほしい。

- ・少子化とともに企業も人材確保が難しくなっている。今の企業では、大学を卒業後、入社してこつこつ積み上げていく処遇が基本になっているが、多様な採用、処遇の在り方、例えばドクターを企業がどう使っていくかといったことを大学と議論していきたい。大学としてはこういう人材が供給できる、その代わりに企業にはこういう処遇を求めたい、というような議論が必要ではないか。
- ・産学における共同研究については、大阪大学方式は非常にうまくいっており、文部科学省や様々なところから評価されている。だが、まだまだ道半ばであり、特に大事なことは現場で何が起きているか、現場で苦勞していることは何か、という中身を見ることである。中身を見ずに制度やルールを作っても発展はしない。トップの方々は意識してほしい。
- ・東京、京都、名古屋にない大阪の特徴は何かというと、やはりアジアに近いことである。距離の近さ、アクセスの良さや、大阪外国語大学と統合し多言語教育を展開していることなど、大きな要素ではないか。大阪大学と他機関の連携において、ソフト面の連携だけでなく、場所や距離をセットにして連携を考えていくとより強力になっていくため、もっとアジアを視野に入れてはどうか。
- ・この先大阪は人口が減っていく。その中で10年、15年、20年先に大阪大学はどういう姿であるのか。少子超高齢化社会で学生、大学の規模はどうなっていくのか。単年度の計画も重要だが、将来どんな姿となっていくのかを考える必要もあるだろう。
- ・入試の案件は市民や社会からの信頼を失いかねないような事態だが、その信頼を取り戻すためにはどうすればよいかというと、大学の使命である教育研究、社会貢献において成果を上げ、市民や社会に貢献するイノベーションを生み出していくことしかないだろう。浮き足立ったりせず、全ての教職員が一丸となって、世界屈指のイノベーティブな大学を実現するという強い意志で着実に歩み続けてほしい。
- ・今回の入試の案件についての、総長の誠意ある対応、気持ちには委員として大変嬉しく思っている。感謝を申し上げたい。

(以 上)